

一橋大学大学院社会学研究科研究科内センター

2019 年度活動報告書・2020 年度事業計画概要

センター	名称:ジェンダー社会科学研究センター ウェブサイト: http://gender.soc.hit-u.ac.jp/ 学内活動拠点・同電話番号:貴堂研究室 別館2階 042 (580) 8492
報告者 (センター代表者)	氏名: 貴堂嘉之・中井亜佐子 電子メール: y.kido@r.hit-u.ac.jp
報告書提出年月日	2020 年 4 月 8 日

2019 年度活動報告

社会学研究科内センター規程「(別表)研究科内センター設立申請書作成時の留意点」の内容も踏まえ、以下の諸点につき項目別に具体的かつ明確に記述してください。記載は 10.5 ポイントで行い、必要に応じて欄の仕切りを上下に調整し、最大でも3頁以内に全体を収めてください。図表を含める場合も、この範囲に収めてください。

1. 組織構成員の異動と理由説明

2019 年度は、代表 2 名(貴堂嘉之・中井亜佐子)、教育部門総括 1 名(井川ちとせ)、研究部門総括 1 名(洪郁如)、総務・財務部門総括 1 名(佐藤文香)と、共同推進者 23 名(伊藤るり、大河内泰樹、太田美幸、尾崎正峰、加藤圭木、木本喜美子、小井土彰宏、坂なつこ、坂元ひろ子、中野聡、森千香子、安川一、山田哲也、Chris Ahmadjian、越智博美、竹内幹、横山泉、森口千晶、イ・ヨンスク、井上間従文、長塚真琴、松塚ゆかり、柘植道子)の組織構成員で活動を行った。

2. 当初事業計画に照らした活動実績

2.1 教育実績

ジェンダー教育プログラム(GenEP)部門では、2007年度より全学的なプログラムを提供してきたが、2019年度は基幹科目群として学部5科目、大学院2科目、連携科目群として全学共通教育14科目、学部41科目、大学院14科目、合計76科目を提供した。履修者数は学部生7,398名、院生314名、総計延べ7,712名であった。運営は安定しているが、大学院科目の充実が課題であると言える。

2.2 研究実績

本センター構成員の個々の研究実績は多岐にわたるため、代表および部門総括の業績の一部を掲載する。

- ・貴堂嘉之『シリーズアメリカ合衆国史 2 南北戦争の時代 19 世紀』, 岩波書店, 2019.
- ・貴堂嘉之「移民国家アメリカの歴史再考——ヘイトの時代に歴史学ができること」『歴史学研究』通巻 989 号, pp.12-21, 2019.10
- ・中井亜佐子「旅する理論——エドワード・サイードはフーコーをどう読んだか」『思想』No.1145, 2019.9
- ・中井亜佐子「複製技術時代の〈作者の声〉——ジョウゼフ・コンラッドの『闇の奥』からフランシス・ Coppola 監督の『地獄の黙示録』へ」松本朗他編『イギリス文学と映画』三修社, 2019.10
- ・井川ちとせ「情動と「多元呑気主義」——ポストクリティークの時代に D. H. ロレンスを読む」『言語文化』通巻 56 号, pp.57-78, 一橋大学語学研究室, 2019.12
- ・洪郁如(編著)『性別與權力』国立台湾大学出版中心, 2020
- ・洪郁如「ジェンター・階層・家族」『台湾研究入門』東京大学出版会, pp.75-84, 2020
- ・佐藤文香監修『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた——あなたがあなたらしくいられるための 29 問』明石書店, 2019.6
- ・Fumika Sato and Nora Weinek, “The “Benevolent” Japan Self-Defense Forces and Their Utilization of Women”, Hitotsubashi Journal of Social Studies 51(1), 2020.1

2.3 外部機関等との連携および社会貢献の実績

【外部機関等との連携】

外部講師を招聘し、下記の講演会、シンポジウムを開催した。

①公開レクチャー・シリーズ(第46回)2019年5月24日

講師:長志珠絵、タイトル「占領期神戸・エゴドキュメントとしての女性軍属の手紙を読む」

司会:貴堂嘉之(国内交流セミナー[社])参加者:29名

②公開レクチャー・シリーズ(第47回)2019年7月3日

講師:カール・ゲイブリエルソン、タイトル「サムライファンタジー」と「子供扱い」——日本文化を利用した在日米兵の軍事的男性性」司会:佐藤文香(国際交流セミナー[社])参加者:14名

③一橋プライドフォーラム・キックオフイベント シンポジウム「大学におけるセクシュアルマイノリティ学生の権利保障」(共催 プライドブリッジ)2019年9月18日

基調講演:松中権、登壇者:井上久美枝・河野禎之・内藤忍・吉田徳史・真鍋康正

司会:神谷悠一・三浦綾希子

参加者数:約120名

【社会貢献】

公開レクチャー・シリーズは、毎回、学会や市民ネットワークを通じた広報を行っており、学外からの研究者および市民にも開かれたイベントとして広く社会貢献に役立っており、本センターの開催するイベントに対し学内外から高い期待が寄せられている。

2.4 外部資金獲得実績

一橋大学卒業生有志団体 Pride Bridge(会長:松中権氏)より寄附金 60 万円を得て以下の活動を行った。

- ・ジェンダー教育プログラム(GenEP)のフォローアップ・プログラムとして「一橋プライドフォーラム」を始動
- ・第二研究館 5 階にプライドフォーラムリソースセンターを設置(2020 年度内にオープン予定)
- ・教職員組合との共催事業「学内の多様性を考える会」を引き継ぎ、2019 年 9 月より実施

3. 2020 年度事業計画概要

2020年度は、下記の4点を行うこととする。

- (1)ジェンダー教育プログラムの運営を行う。
- (2)共同推進者の協力を仰ぎつつ、公開レクチャー・シリーズを企画・実施する。
- (3)「ジェンダー研究を継承する」アーカイブサイトの国内外への発信に向けて努力する。
- (4)一橋プライドフォーラムの活動を継続して行う。

4. 2020 度における組織改廃計画

代表および各部門総括は今年度も継続する(2年任期)が、一橋プライドフォーラムの始動に伴い、教育部門総括を2名体制(GenEP部門 井川ちとせ、プライドフォーラム部門 太田美幸)に増強する。また、言語社会研究科から小岩信治、川本玲子が新たに共同推進者として加わることとなった。

5. その他特記事項(研究科への要望等は本欄には書かず、別途研究科長にご相談ください。)